

厚生労働省
令和6年度

子育て世代の医療職支援事業
実施報告書

Medical Professions'
Universal Support and
Career Development with
Active Teamwork



広島大学病院
女性医師支援センター

厚生労働省
令和6年度

子育て世代の医療職支援事業
実施報告書

Medical Professions'
Universal Support and
Career Development with
Active Teamwork



広島大学病院
女性医師支援センター

厚生労働省
令和6年度

子育て世代の医療職支援事業
実施報告書

目次 CONTENTS

はじめに

令和6年度 活動報告

1 広島大学病院の現状について	06
2 実施計画	08
3 活動実績	12
1. 職場の理解にかかる取り組み	13
1-(1) 地域の医療機関、関係団体等との連携体制の構築	13
1-(2) センター運営会議	17
1-(3) 広島県女性医師支援総合会議	20
2. 相談窓口等にかかる取り組み	24
3. 勤務体制、診療体制にかかる取り組み	26
4. 保育にかかる取り組み	27
5. 復職支援にかかる取り組み	32
6. 効果的支援策の普及活動の実績	33
I. キャリア継続・復職・保育に関する支援	33
II. 活躍支援	34
III. 支援情報の周知、支援ニーズの把握	34
4 本事業からの今後の支援策	35
5 外部評価	36

はじめに

広島大学病院は平成 29 年 4 月に女性医師支援センターを設置いたしました。近年の医師国家試験合格者における女性の割合は約 35%で、医学部入学者では 40%を超えていますので、今後も女性の比率が徐々に増えていくことが予想されます。女性の場合には結婚・妊娠・出産・育児・介護等、さまざまなライフイベントによって、勤務環境が変化していきます。女性医師が無理なく医師としてのキャリアを継続していくためには多くのサポートが必要となります。広島県唯一の医育機関として、女性医師に切れ目なく働き続けていただける環境を整備することは、医師不足が懸念されている広島県にとって、極めて重要な課題です。

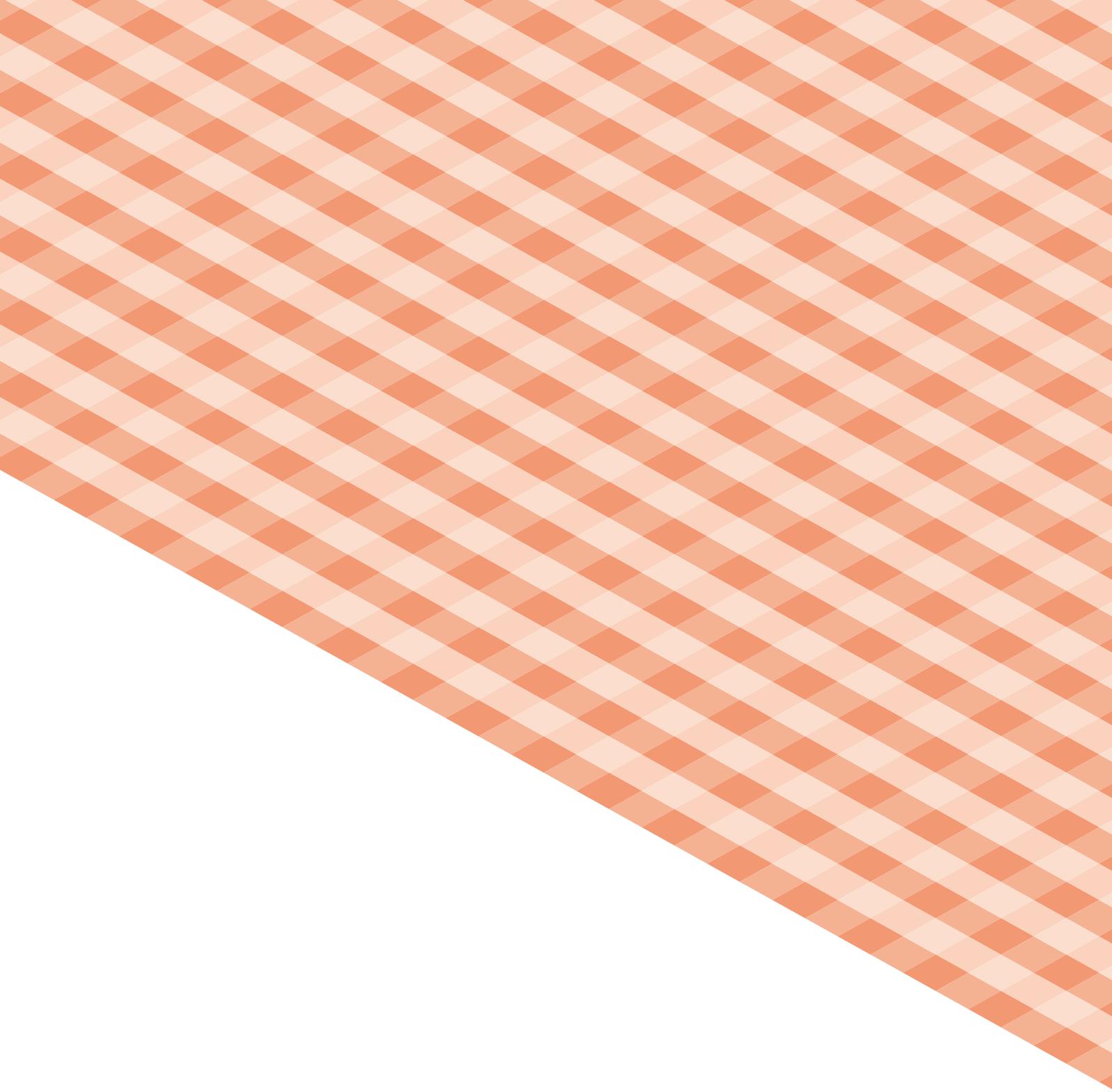
広島大学病院女性医師支援センターでは、①働きやすく効率のよい職場環境の整備、②働き続けられる職場、③離職しても復帰しやすい職場、④女性医師のキャリア継続支援、を目的とし、女性医師の仕事と家庭の両立を目指した支援を行っています。また、ホームページを通じ、各々にあった支援事業を今後も充実させていきたいと思っています。

センターを設置以降は、厚生労働省の支援事業に毎年申請・採択されております。令和 6 年度も引き続き「子育て世代の医療職支援事業」に採択され、これまでの活動を継続しつつ、種々の試みを行ってまいりました。特に医師として苦労を重ねてキャリアを継続されてきている女性医師、女性医師の割合の高い診療科の医局長、事務職員には多大な協力を得ながら活動し、本報告書をまとめるにいたりました。また、外部評価委員にはわれわれの活動に対する適切な審査と、今後のセンター活動に対しての貴重なご意見をいただくことも出来ました。

本報告書には今年度の反省点を記載しており、これを土台とし、今後改善していくことを課題としたいと考えます。持続可能な支援事業とその発展から、ひとりでも多くの女性医師がキャリアを継続し、医師としての職務を最大限全うすることができるよう、女性医師支援センター活動に職員一同、取り組んでまいります。今後ともご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和 7 年 3 月

広島大学病院 女性医師支援センター
センター長 堤 保 夫
(広島大学大学院医系科学研究科 教授)

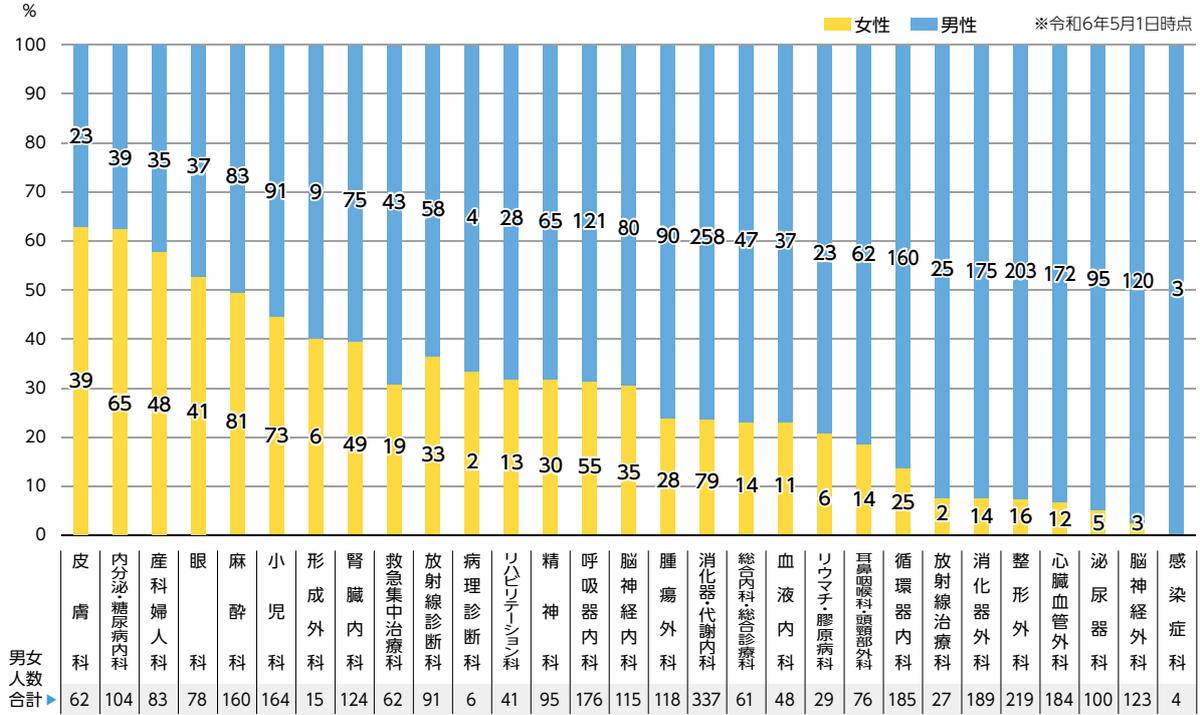


令和6年度 活動報告

令和6年度 活動報告

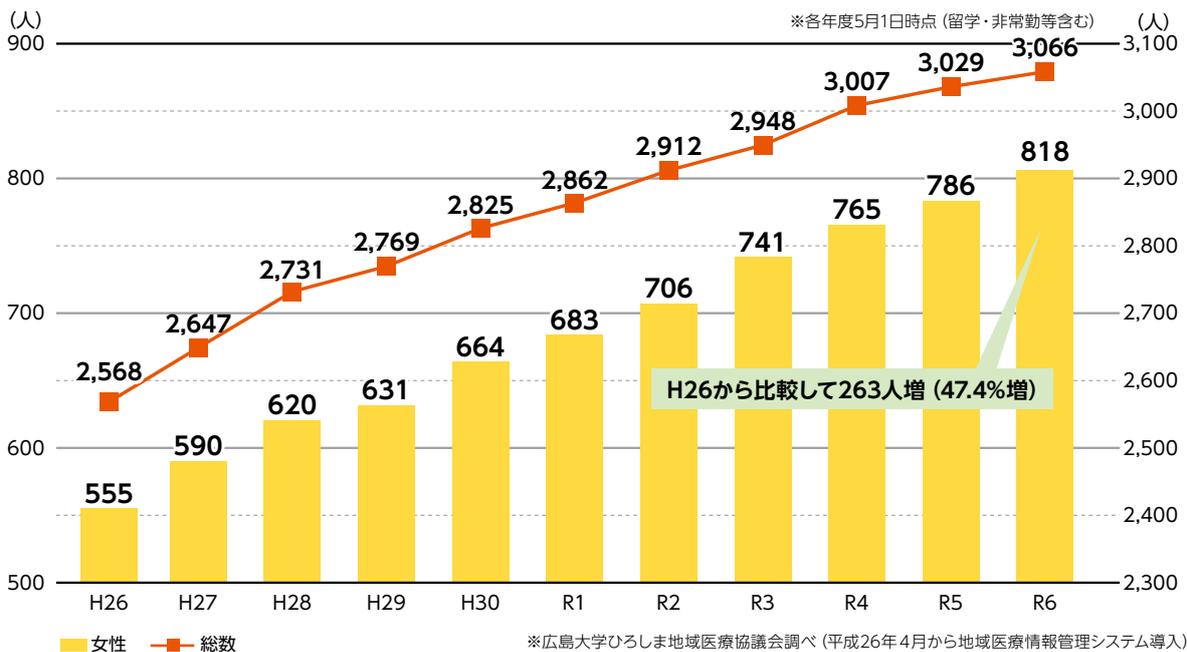
1 広島大学病院の現状について

広島大学病院の診療科別男女割合（関連病院含む）



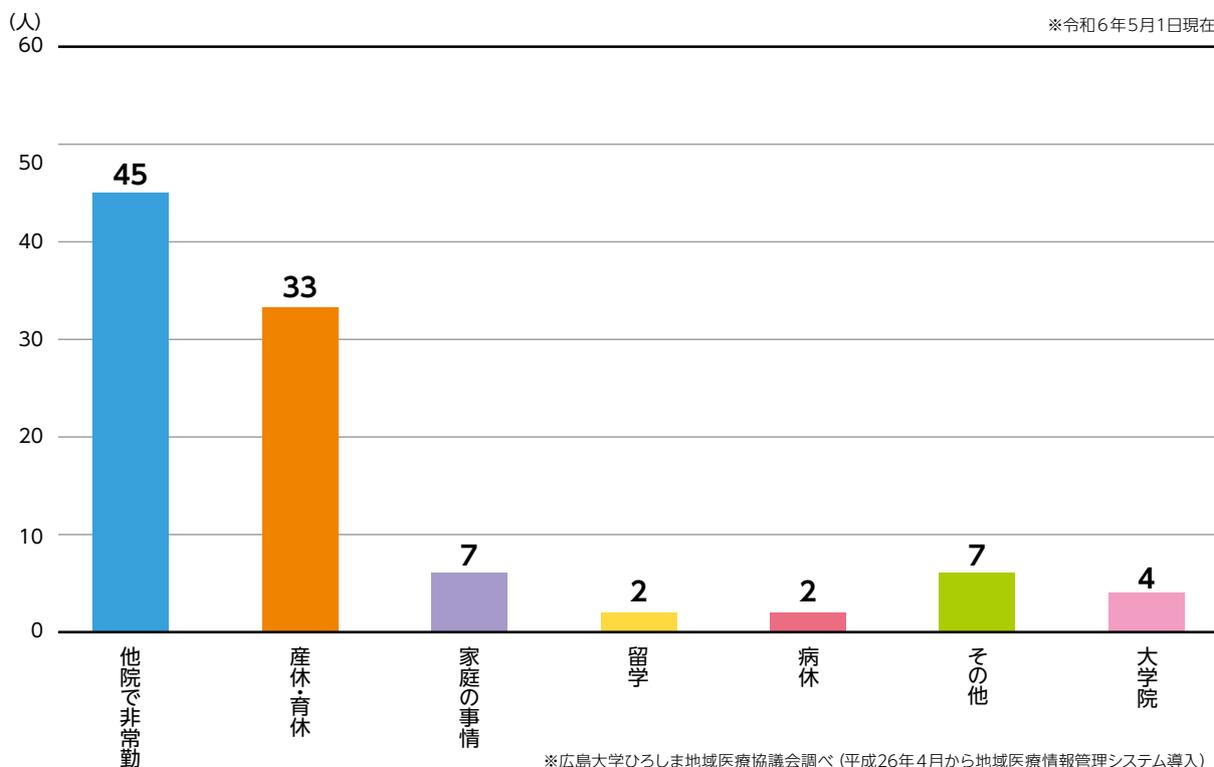
※広島大学ひろしま地域医療協議会調べ（平成26年4月から地域医療情報管理システム導入）
※グラフ内の数字は女性医師の人数を示す

広島大学病院の年度別女性医師数推移（関連病院含む）



※広島大学ひろしま地域医療協議会調べ（平成26年4月から地域医療情報管理システム導入）

広島大学病院（関連病院含む）の女性医師のうち休職中の者の状況



広島大学病院女性医師支援センター設立の背景

広島大学では平成28年度まで、男女共同参画推進室が女性研究者を対象とした各種支援を実施してきた。近年、女性医師の割合が増加しているが、女性医師の中には、出産・育児等によりキャリアを中断せざるを得ない場合があり、大学病院各診療科では女性医師へのキャリア継続のための支援が重要な課題となっている。また、女性医師のキャリア継続には、ワーク・ライフ・バランスの再考と、家族のみならず同僚や職場全体の支援が重要となる。

このような状況を踏まえ、働きやすい効率のよい職場環境の整備を支援し、働き続けられる職場、離職しても復帰しやすい職場を構築し、女性医師にとって働き甲斐のある病院にしていくことを目的に、広島県内唯一の医育機関である広島大学に、「広島大学病院女性医師支援センター」（以下「センター」という。）を設置した。平成29年4月1日から広島大学病院、大学院医歯薬保健学研究科（現：大学院医系科学研究科）に属する女性医師、医学部医学科に属する女子医学生のキャリア支援を開始した。

なお、女性医師の臨床現場定着を目指した活動や臨床現場復職を目指した活動は、広島県、広島県医師会、広島県地域医療支援センターなど広島県下の様々な団体・医療機関との連携・協力により推進し、次世代育成を目指した活動は、広島大学財務・総務室「男女共同参画推進室」と連携して推進することとした。

また、センターの運営支援は、医療政策室において行うこととした。

2 令和6年度 女性医療職等のキャリア支援事業実施計画

支援策の大きな柱は以下の通りである。

- I. キャリア継続・復職・保育に関する支援
- II. 活躍支援
- III. 支援情報の周知、支援ニーズの把握

I. キャリア継続・復職・保育に関する支援

(1) 相談窓口、新たな支援要望情報の収集

- ①「広島三本の矢 女性医師支援チーム（広島大学病院女性医師支援センター、広島県医師会、広島県地域保健医療推進機構地域医療支援センター）」による相談窓口

この3団体のどこに相談があっても情報を共有し、随時最適な支援策を策定して実行する。医学科学生から大学および県内の病院の初期臨床研修医、専攻医まで一貫した女性医師のキャリア相談とその支援を行う。女性医師のキャリア形成について、敷居の低いよろずやの相談窓口を目標とする。相談員は女性医師特有の事情を理解する必要があるため、各科の女性医師支援センター委員が応じる。事務的な手続きについては医療政策室が行う。

- ② 女性医師支援センター ホームページ内での相談受付・回答、目安箱への書き込み

センターホームページを通して相談を受け付け、女性医師支援センター委員が回答を書き込み公開することにより、様々な質問に対する回答を周知する（公開を希望しない場合は公開しない）。たとえば産休、育休、復職支援について等。また、目安箱によって子育て世代等が必要としている支援内容を収集する（公開はしない）。

(2) 勤務体制・診療体制の改善につながる取組

- ① 女性医師採用支援枠

出産・育児の後、職場復帰をめざす女性医師を対象として、女性医師個々の環境に応じたオーダーメイドのキャリア支援制度として、定員外の増員分の「女性医師採用支援枠」を設けている。現在の大学病院の医師定員数に含まれない、かつ勤務時間を自由に設定できる枠であり、常勤復帰までのサポートを行う。時間に制限のある女性医師の職務の補助をするための医師事務作業補助者も雇用する。

- ② 復職支援プログラムの拡充

復職支援を行う中で、その支援は各診療科による違いだけでなく各個人のキャリアの状況によっても大きく希望する内容が異なることが明らかになってきた。そこで最近ではケース毎に復職支援のためのプログラムを提案し、実践している。本センターは大学病院各診療科や教育関連病院に支援内容を依頼すると同時に、プログラムを実践するにあたって有効利用ができる広島大学病院の研修・学習体制があればそれを提供する。

● 復職支援学習システム

各診療科が提供するプログラムを実践するために、e-ラーニングシステムの構築と利用を推進する。大学内外いづれにおいても研修が行えるシステムを構築し、各診療科で提供するプログラム支援を行う。また、種々のカンファレンスには自由に参加出来るように調整を行う。広島大学医学部では医学教育の一環として、バーチャルリアリティ（virtual reality:VR）技術を用いた実習を導入した。今後、この技術を駆使し、産休・育休後などの復職に当たって

必要な手技の確認・トレーニングをできるよう、コンテンツを作成する。

●復職支援研修コース

長期の離職からの復帰希望者に対しても、女性医師支援センターがこれまでのキャリアや離職期間などの聞き取りを個別に行い、各診療科でプログラムを立案していただきオーダーメイドの復職研修コースを提供する。広島大学病院のみならず、診療科の教育関連病院においても、復職研修プログラムを立案し、研修受け入れを調整する。

③医師のワークモチベーションの探索

久米大学、広島大学、岡山大学、佐賀大学、九州大学の共同で「医師のワークモチベーションを維持する動機づけ因子の研究」を行っている。アンケートは年齢別に解析が可能なため、このアンケートを通して女性医師等支援における時期的・質的方策を練る。また、男性医師もアンケートの対象に含めることから、本アンケートからも女性医師等支援において留意すべき点、改善の必要な点についての方策を検討できる可能性が高い。

(3) キャリアに対する理解・意識変革につながる取組

①女性医師のワーク・ライフ・バランス、キャリア形成に関する講演会・お茶会の開催

女性医師等が、病院勤務だけでなく開業や健診業務、介護施設勤務、企業の産業医、行政等、幅広いキャリアの可能性を知ってもらうため、広島県医師会に設置されている女性医師部会との連携により講演会を開催し、女性医師のワーク・ライフ・バランス、キャリア形成・継続に関する現状、情報の共有を行う。女性医師・女子医学生だけでなく、男性医師・男子医学生にも積極的に参加していただき職場全体での理解を図る。質問や相談をしやすいお茶会を開催する。医学科学生を含め、女性のみならず男性医師も対象とし、男性医師の女性医師支援に資する啓発を行う。

②「イクボス」に関する講演会、医師の親世代に対する介護の現状を伝えるセミナー等の開催

「イクボス」を増やすため、特に各診療科教授にもご参加いただく講演会を企画する。形態としては、FDの形での開催とし、より多くの指導的立場の医師に情報を提供し、子育て世代への支援に理解を促す。医師の親世代に対する介護の現状を伝えるセミナーは、子育ての終わった世代の現実的な問題として取り上げるが、子育て世代には将来自分が向き合うかもしれない問題として情報を提供する。

(4) 保育環境改善につながる取組

① Web 会議ツールを駆使したキャリア支援

新型コロナウイルス感染症の拡大で一般市民の移動が制限されることにより、オンラインオケージョンが増加し、リモートを前提とした活動やデジタル化が進行している。この方向性は育児、介護を行っている医師にとって好都合な部分も多い。これまで対面で行っていたキャリア相談や参集していたセミナー・講演会等に関し、オンライン/リモートで職場・自宅にて参加できるようシステムを構築し利用している。今後も、子育て・介護に支障のない場所・時間での相談、会議・講演会への出席、②に提案する企画への参加が可能になるように、積極的に Web 会議ツールを用いる。

②各診療科女性医師懇談会・初期研修医を対象とした各診療科のリアルワールド紹介・子連れで参加できるスキル上達セミナー等の開催

これまで当センターの主催する女性医師懇談会は行われていたが、各診療科に特化した議題を話し合う機会も必要と考え、各診療科での女性医師懇談会の開催を推進する。また各診療科の女性医師等の働き方の実際を含め、

初期研修医の不安等を解決すべく各診療科のリアルワールドを紹介する機会を設ける。さらに、最新治療法の紹介やエコーのハンズオンや腹腔鏡・内視鏡等のスキル上達を目指した子連れ参加可能なセミナーを開催する。スキルの上達だけでなくキャリアと家庭（家事、育児、介護等）の両立について気軽に議論のできる環境を作ることも目的とする。Web 会議ツールを利用したセミナーやリモート指導を行う。

③ 夕方以降・休日の勉強会・研修会等開催時の託児経費補助

日中は診療に従事するため多くの診療科の勉強会等は夕方以降の開催となる。基本的にはオンライン/リモートでの参加も可能の方向で推奨するが、対面での参加で得られることも多い。そのような場合、育児中の女性医師等が参加しやすい環境整備のため、夕方以降に診療科等で実施する勉強会・研修会において託児を設置するための経費の補助を当センターで行う。夕方だけでなく、休日に開催するセミナー等の託児の経費も支援する。また持ち運びできるベビーベッドを本センターに備え、子どもを預けられないときに医局で短時間の打合せが必要な場合など、希望に応じて活用できるよう貸出を行う。

一方で、各診療科のカンファレンスなどは夕方以降ではなく勤務時間内に行えるよう意識改革を支援する。

④ 広島県医師会の子育て支援事業のサポート

広島県医師会の子育て支援事業として「保育サポーターバンク」が開設されたため、支援を必要とする女性医師等は保育サポーターの紹介を受けての利用が可能となった。運用の状況について、大学病院内での周知や広島県女性医師支援総合会議において広島県内の病院長あるいは人事関連担当者にも周知したため、令和6年度（2月末まで）は、サポーター64名登録、利用者4名、マッチング件数34件、と増加している。今後 Web や会議の際の紹介を通して利用の拡大を促す。

⑤ 保育情報の取りまとめと共有

当センターで広島県下の主要病院および協力病院から院内保育についての情報を収集し、大学病院のホームページに掲載することにより広島県で就業するすべての医師と情報共有できるようにし、毎年アップデートを行っている。また、広島県保育連盟連合会、広島市保育連盟と連携し、保育所利用状況をはじめとした最新情報を収集し、周知を図る。

⑥ 病児・病後児保育の拡充

広島大学病院の敷地内には、たんぼぼ保育園およびこすもす保育室の計2か所の保育施設があり職員の育児と仕事の両立を支援している。たんぼぼ保育園では一部、病児・病後児保育が可能である。不十分な場合には学外の病児・病後児保育施設を利用した者に対しては、その利用料を補助する事業が運用中であるが、今後学内での病児保育が十分に利用できるよう、病児・病後児保育施設の拡充について検討を行う。

⑦ 小学校の長期休暇期間中および緊急事態に呼応した子どもクラブの開設

小学校の長期休暇期間中には、大学病院敷地内で夏季子どもクラブ、冬季子どもクラブ、春季子どもクラブとして学童保育をおこなっている。

令和3年度および令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止のため小学校が臨時休校となったことを受けて急遽学童保育を実施した。大学病院勤務の利用者においては、医療従事者として勤務を継続することを求められる立場であることを鑑み、昨年度女性医師等支援事業として採択された厚生労働省の事業費を活用して女性医師、男性医師を問わず利用料の補助を行った。また、民間の学童保育を利用した者の利用料も一部支援した。新型コロナウイルス感染に関することだけでなく、今後いかなる緊急事態においても同様の利用料補助が行えるよう整備する。

Ⅱ. 活躍支援

キャリアを継続できている医師に対して活躍支援を行う。以下の支援は、活躍支援と同時にキャリア継続支援においても効果を発揮すると考える。

(1) Temporary Mentoring 制度

- ①目的：子育て世代等の活躍を支援するため、業績作りをサポートする。研究、助成金獲得、子育てとの両立等に関し、希望者は個別のメンターを選択し、一時的に助言、サポートを受け、より質の高い業績をあげていただく。長期間のサポートは、双方の精神的負担になる場合が想定されるため、必要な時に必要なだけサポートを行う。
- ②メンター：男性医師、女性医師、当初は女性医師支援センター委員で始める。各委員の紹介をホームページ上にアップし、支援希望者からの指名を受ける。

(2) HUH (Hiroshima University Hospital) 活躍支援助成 (広島大学病院の予算にて実施)

- ①目的：キャリアを継続している子育て世代医師が、さらに活躍できるよう、活躍支援を行う。
- ②対象：子育てをしながら広島大学病院で勤務をする医師（男性、女性を問わない）
- ③助成内容：学会、勉強会参加に伴う保育に関わる費用
- ④助成金額：10万円まで
- ⑤報告事項：助成使途内容、それによる業績等を年1回行われる発表会にて発表する

Ⅲ. 支援情報の周知、支援ニーズの把握

(1) 広島県女性医師支援総合会議

広島三本の矢チームの構成組織である大学病院診療科長、各診療科人事担当者、広島県内の病院長あるいは人事関連担当者、広島県、広島市医師会女性医師部会、広島県地域保健医療推進機構地域医療支援センターに加え、医師を求める診療所などすべての関係者が参加する会議であるため、本会議において支援情報の周知、情報共有、要望の収集等を行う。本会議において、女性医師キャリア支援に関し総合的に議論する。

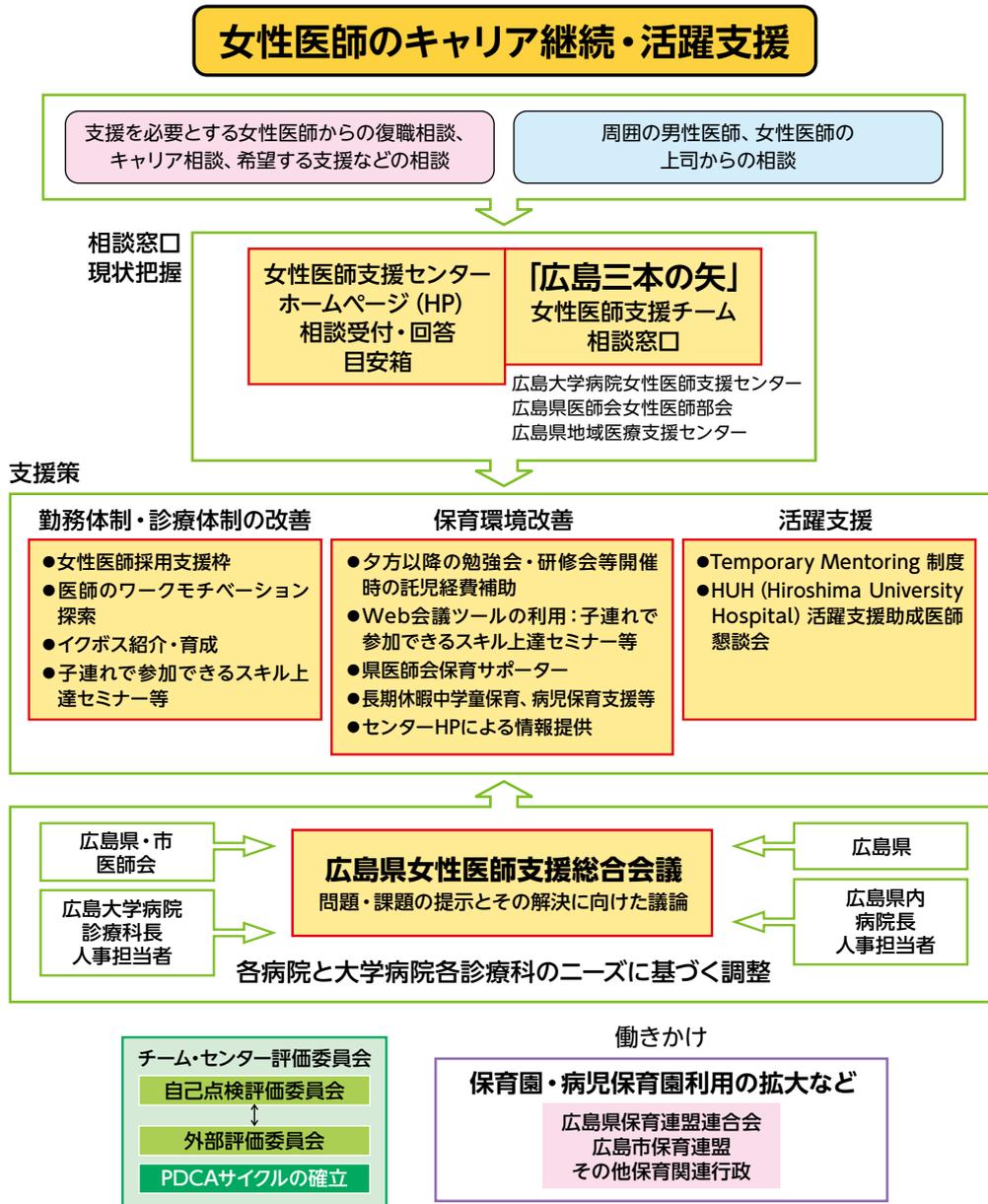
(2) 女性医師支援センター ホームページの利用

上記の事業の内容、公募、結果、相談回答等はすべてホームページで紹介するとともに、各診療科に女性医師支援担当委員をおき、診療科内での情報の公開をお願いする。

3 活動実績

本年度の活動状況および成果を以下に示す。

広島大学病院女性医師支援センター 支援策オーバービュー



1. 職場の理解にかかる取り組み

1-(1) 地域の医療機関、関係団体等との連携体制の構築

広島県医師会と連携し、女性医師・女子医学生をサポートするための講演会等を開催することにより、問題提起・解決策の模索を行った。

【医学生、研修医等をサポートするための会】

テーマ：「病児保育」・「介護」

日時：令和7年1月30日(木) 18:30～

場所：広島大学広仁会館大会議室 および Web (Zoom) のハイブリッド開催

講演：座長：広島県医師会女性医師部会長 石田 万里

講演 1：「キャリアを諦めない！ 病児保育の利用方法」

講師：どんぐり小児科 院長 山本 恵

講演 2：「～医師として介護の経験をさせてもらったこと～急性期と終末期のはざまの中で」

講師：広島市立北部医療センター安佐市民病院

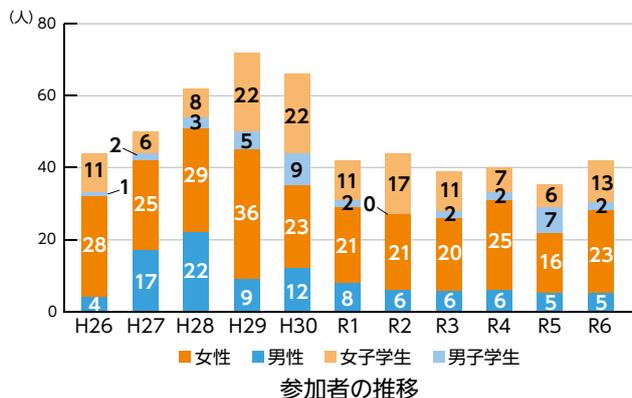
総合診療科主任部長 原田 和歌子

ディスカッション



総参加人数は 43 人 (医学生 15 人、医師 22 人、研修医 2 人、その他 4 人) であった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いていたため、現地をメインとしオンラインを併用したハイブリッドで開催した。オンラインを導入したことで、地域の医師だけでなく、遠隔地の学生・研修医・医師など、より多くの方に聴講いただけた。「病児保育」と「介護」をテーマとして、二部構成でおこなった。第一部は、病児保育を実践されているどんぐり小児科の山本恵院長から、病児保育の利用方法や現在の稼働状況についてご講演いただいた。第二部は、実際に介護を経験された広島市立北部医療センター安佐市民病院の原田和歌子医師から、医師の立場と患者の親族としての立場から感じた介護についてご講演いただいた。その後のディスカッションでも多くの質問や意見が出るなど、盛況のうちに終了した。



～参加者アンケートより～

■参加された感想は

医学生からの意見【とても良かった・良かった】

- ▶具体的に将来のことがイメージできて安心できました。
- ▶病児保育について知ることができて良かった。介護や看取りについて実際に経験された話を聞くことができて学びになった。
- ▶普段聞くことのできないリアルな介護の話が聞けて良かった。
- ▶普段知ることのできない病児保育や看取りの話を知ることができた。
- ▶育児と仕事、仕事と介護の両立されている医師の方の話を聞いてとても参考にしたいと思った。
- ▶原田先生の医師としてのご経験、家族の1人としての貴重なお話を聞いて本当に良かったです。
- ▶病児保育や介護のお話を先生方の経験をふまえて聞くことができた。
- ▶自分の知らない病児保育に関する制度がたくさんあることを知れた。
- ▶病児保育、介護、どちらも大変勉強になりました。
- ▶病児保育の現状や子育て・介護の実体験について詳細に伺うことができた。

- ▶女性医師の大変さがよくわかった。
- ▶原田先生のお話を伺い、体制は整いつつあるのだと感じた。

■今後もこのような活動は必要だと思いますか

医学生からの意見【必要】

- ▶知れば役立つことがたくさんあると思うのでもっと勉強したいです。
- ▶医師をサポートする会があることを周知するために必要。
- ▶授業などでこのような講義は少ないため必要。
- ▶まだ社会や医師間の認識が浅いと思う。
- ▶選択肢があると知ったうえで、自分のキャリアプランを考えることは非常に重要だと思います。
- ▶このような場があることで情報を得ることができるから必要。
- ▶様々な制度があるのに利用率が低いとのことでより多くの人にまずは制度の存在を広める必要があると思ったから必要。
- ▶情報を入手する機会になる。
- ▶見識が広がり、自分の人生や他の仲間の人生に活かすことができる。

■参加されて女性医師支援、ワークライフバランス、男女共同参画に対する意識は変化しましたか

医学生からの意見【上がった・少し上がった】

- ▶男性にももっと知ってほしいです。女性がやらないといけないと決めるのはもったいないと思います。
- ▶女性医師だからといってキャリアを諦めなくて良いと思えた。
- ▶育児・介護支援の制度が充実しており、選択肢があるのだと勉強になりました。
- ▶支援体制が整っていると感じ（不十分な面もあるかもしれないが）、先輩の先生方が多くいらっしやると感じた。

■ご要望・ご意見

医学生からの意見

- ▶学生時代、研修医のうちにやっておいた方がよいことについてのお話しが聞きたいです。
- ▶ありがとうございました。原田先生のお話で号泣しました。
- ▶大変勉強になりました。ありがとうございました。



【医学生と医師のお茶会】

日時：令和6年12月12日(木) 16:30～18:00

場所：広島大学広仁会館大会議室

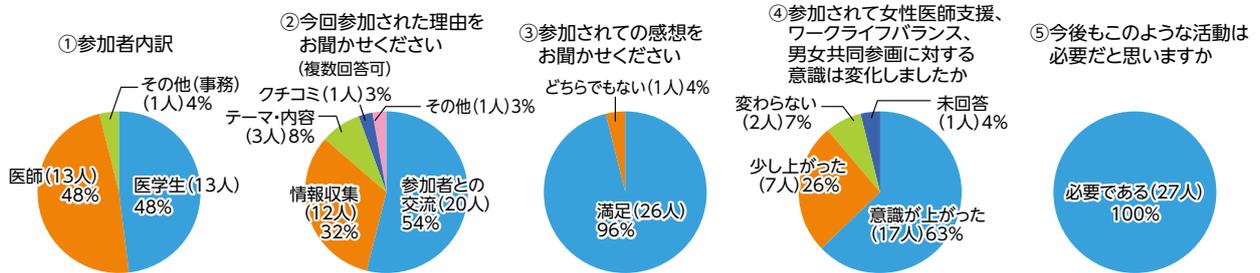
平成27年度の開始から、今年度で10回目の開催となった。参加者は医学生14人、医師17人、その他6名の計37人となった。

昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症流行以前の対面形式で開催した。お茶・コーヒーやケーキを飲食しながらの現地開催を行った。あらかじめ参加予定の学生から話を聞いてみたい診療科や質問内容等を収集し、なるべくそれに答えられるように対象の医師に積極的に声をかけた。はじめに、HUH (Hiroshima University Hospital) 活躍支援助成を受けた1名の医師から、子育てをしながら臨床・研究を行う工夫などの発表があり、様々な苦労がありながらも努力し、楽しく子育ても研究も行なっていることが話された。引き続き茶話会とし、いくつかのグループにわかれ、それぞれのテーブルでの自由交流を行った。

参加した学生は皆、参加してよかったとの感想であったが、もっと多くの学生が参加してくれるように、内容の企画や広報については更なる検討が必要と思われた。事前に多くの学生から意見を聞き、多くの学生にとって有益な時間となるように次年度につなげていきたい。



R6年度アンケート結果(回収率 84.4%)



～参加者アンケートより～

■感想・意見

医学生からの意見

- ▶ ライフプランについて具体的なイメージがもてて良かったです。
- ▶ 先輩医師の方々から温かいエールをいただけて嬉しかったです。
- ▶ 大変勉強になり楽しい時間をありがとうございました。
- ▶ とても楽しく勉強になりました。ありがとうございました。



■次回開催した場合、取り上げたらよいと思うテーマ等

医学生からの意見

- ▶ 参加されたお医者様のライフプラン、生活について 知りたいです。 ▶ イメージがわきやすく比較もでき大変ありがたいです。
- ▶ アウトソーシングについて ▶ 各診療科の女性医師が働く上でのメリット・デメリット
- ▶ キャリアの具体例(年表)を複数掲示していただけます ▶ 医師と学生と1対1で話せる場があると嬉しいです。
- ▶ ▶ 1日のスケジュール、人生設計

成果

広島大学病院女性医師支援センターと広島県医師会との連携により、医学生、研修医等をサポートするための会および医学生と医師のお茶会を継続的に開催することができている。特に、この連携によって医学生、研修医等をサポートするための会への男子学生を含む医学生の参加者は継続して得られており、若い世代へのダイバーシティを考慮した情報提供、問題提起・解決策討論という目的を果たすことができていると考える。お茶会については、令和元年度からポスターの女子・女性という文字を削除した。このお茶会は、女子医学生や研修医が医師として働く際の女性特有の問題についてロールモデルを示しながら共に考えていこうという趣旨で行なっているが、実際には男性医師の理解も重要となるため、男子学生の参加も推進したいという思いからである。例年、男子学生の参加は少数ながら得られており、男性に学生の中からこの問題に対して興味をもち考えていただく良い機会になっていると考えるが、今年度は男子学生の参加がなかったため、広報について更なる検討が必要である。一方、男性医師は今年度も参加されており、医学生にとっては、男性医師からみた女性医師の働き方に関するディスカッションも大変参考になっている様子である。さらなる男子学生・医師の参加を得て、出産・育児・介護と医師の働き方について、あるいはキャリア継続における問題について、男女ともに学生時代から討論できる機会を作っていきたい。支援したい医師がたくさんいる中で、支援したい気持ちを学生にうまく伝える必要があると考え、今後も学生のニーズに応えられるようにコミュニケーションをとり、会を企画していきたい。

1-(2) センター運営会議

センターの具体的活動目標

- 各診療科からの女性医師支援のための提案の受入
- 女性医師を含めた医局との連絡網の充実
- 勤務条件に制約のある女性医師の医局人事外での就職のサポート
- 保育所の情報収集と伝達
- 病児保育に関する情報収集と伝達
- 医学部学生時代からのキャリア形成紹介と教育

女性医師支援センター運営委員会

委員長：堤 保夫 教授・センター長

副委員長：蓮沼 直子 教授・副センター長

	委員名	所属	職名	専門分野等
1	堤 保夫	大学院医系科学研究科	教授	麻酔蘇生学
2	蓮沼 直子	大学院医系科学研究科	教授	医学教育学
3	中村 優子	大学院医系科学研究科	准教授	放射線診断学
4	香川 礼子	病院	助教	小児科
5	向井 百合香	病院	助教	産科婦人科学
6	小松 香織	病院	助教	眼科
7	倉田 明子	病院	講師	精神科
8	檜崎 壮志	大学院医系科学研究科	助教	麻酔蘇生学
9	児玉 堯也	病院	助教	内分泌・糖尿病内科
10	松尾 佳美	病院	助教	皮膚科
11	坂原 朝子	病院	医科診療医	放射線診断科
12	網岡 愛	病院	医科診療医	乳腺外科
13	松田 万莉	病院	非常勤医師	放射線診断科
14	小左古 学	病院運営支援部総務グループ	グループリーダー	

令和6年度委員会開催状況

第1回	
日 時	令和6年6月4日(火) 17時から
議 題	1 広島大学病院女性医師支援センターの運営組織について
	2 令和6年度女性医師支援センターの年間事業について
	3 その他
第2回	
日 時	令和6年7月4日(木) 17時から
議 題	1 令和6年度広島大学病院女性研究者奨励賞について
	2 令和6年度広島大学病院活躍支援助成について
	3 今後の事業の日程について
	4 その他
第3回	
日 時	令和6年9月17日(火) 17時30分から
議 題	1 令和5年度広島大学病院女性研究者奨励賞について
	2 令和5年度広島大学病院活躍支援助成について
	3 今後の事業の日程について
	4 広島県女性医師支援総合会議の議題について
	5 その他
第4回	
日 時	令和6年10月17日(木) 18時から
議 題	1 女性医師採用支援枠利用の募集案内について
	2 広島県女性医師支援総合会議の議題について
	3 令和6年度医学生と医師のお茶会について
	4 その他
第5回	
日 時	令和7年1月21日(火) 17時30分から
議 題	1 医学生・研修医等をサポートするための会の開催について
	2 医学生と医師のお茶会の開催報告について
	3 その他

広島大学病院女性医師支援センター運営委員会細則

平成 29.3.22

病院長決裁

(設置)

第1条 広島大学病院女性医師支援センター内規第8条の規定に基づき、広島大学病院女性医師支援センター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 女性医師支援センターの運営に関する事項
- (2) 女性医師支援センターの業務に関する事項
- (3) その他女性医師支援センターに関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 女性医師支援センター長
- (2) 女性医師支援センター副センター長
- (3) 内科系の女性医師のうちから2名
- (4) 外科系の女性医師のうちから2名
- (5) 病院運営支援部総務グループリーダー
- (6) その他病院長が必要と認めた者若干人

2 委員は、病院長が任命又は委嘱する。

3 第1項第3号、第4号及び第6号の委員の任期は、2年とし、4月1日に任命又は委嘱することを常例とする。ただし、4月2日以降に任命又は委嘱された委員の任期は、その任命又は委嘱の日から起算して1年を経過した日の属する年度の末日までとする。

4 第1項第3号から第6号までの委員の再任は、妨げない。

(会議)

第4条 委員会に委員長を置き、女性医師支援センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、女性医師支援センター副センター長がその職務を代行する。

第5条 委員会は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(情報公開)

第6条 委員長は、委員会に係る情報のうち、個人情報等で公開が不相当と認められるものを除き、広島大学病院に係る教職員に対し、その情報の公開に努めるものとする。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、医療政策室医療政策・医学系研究推進グループにおいて処理する。

(細則の改廃)

第8条 この細則の改廃は、病院運営会議の議決により行う。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この細則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 30 年 4 月 26 日 一部改正)

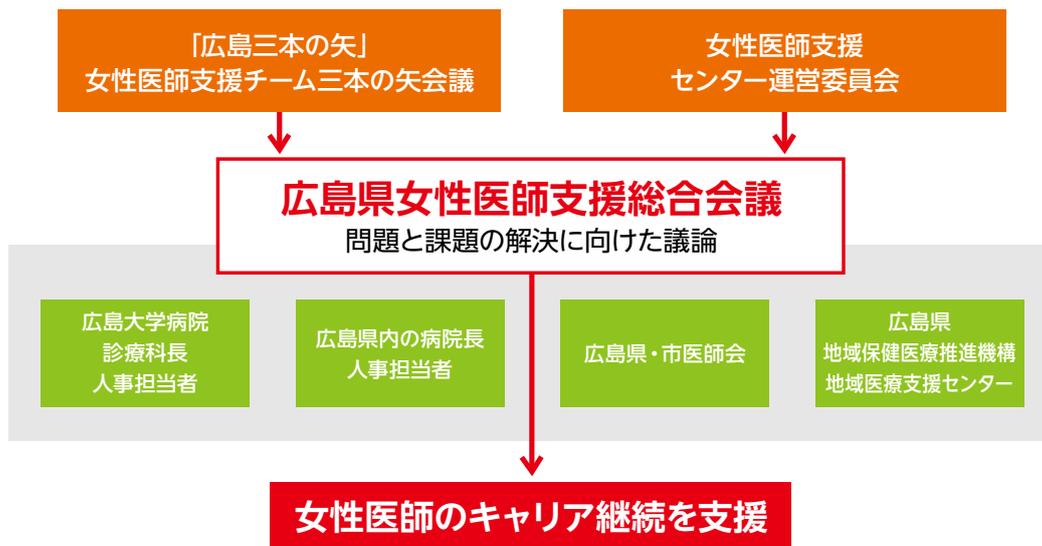
この細則は、平成 30 年 4 月 26 日から施行し、改正後の広島大学病院女性医師支援センター運営委員会細則の規定は、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(令和 2 年 9 月 18 日 一部改正)

この細則は、令和 2 年 9 月 18 日から施行し、この細則による改正後の広島大学病院女性医師支援センター運営委員会細則の規定は令和 2 年 4 月 1 日から適用する。

1-(3) 広島県女性医師支援総合会議

女性医師のワーク・ライフ・バランス、キャリア形成に関わる問題点の共有および解決策の検討のために大学病院診療科長、各診療科人事担当者、広島県内の病院長あるいは人事関連担当者、広島県、広島県および広島市医師会、広島県地域保健医療推進機構地域医療支援センターなどすべての関係者を対象とし、開催する。特に教育関連病院の人事が行われる年末より前に、女性医師の希望、診療科の状況、教育関連病院の実態等を総合的に議論し、女性医師と病院のマッチングの会議とする。



【日時】 令和6年11月14日(木) 17:00～18:00

【場所】 オンライン会議

参加者

- 大学病院 11 診療科から課長又は各医局等人事担当者
- 教育関連病院 15 施設の病院長又は人事担当者
- 広島県
- 広島県地域保健医療推進機構 広島県地域医療支援センター
- 広島県医師会
- 広島市医師会
- 広島大学病院女性医師支援センター運営委員会委員



当日は、議長をつとめる堤センター長からの挨拶の後、広島大学病院女性医師支援センターの取り組みについて報告があった。

議長からは、本会議の役割について説明があり、育児中などで制約のある女性医師がキャリアを継続できるよう、また、短時間でも勤務できる女性医師を必要とする病院との医局人事以外でのマッチングについて依頼があった。その後、関連病院と各診療科に事前に記入していただいたアンケートをもとに、男性医師の育休取得状況、当直に関する取り決め、医師の働き方改革の中で特に育児等に関わる医師に対する配慮、医療クランク等について、活発な意見交換が行われた。

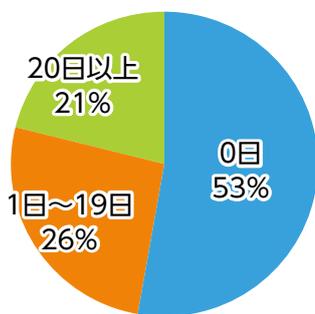
事前アンケートの結果に従い討議を行った。

● 男性医師の育休取得状況について

事前アンケート結果

- 全体では、半数ぐらいの施設が男性医師の育休取得無し。
- 広島大学病院の令和6年度の実績としては、男性医師1名が6日間、出生時育休を取得した。

男性医師の育児休業取得状況



討議内容

- 消化器内科の男性医師1名が2週間程度、育休を取得した。
- 今まで少なくとも3名以上の男性医師が取得しており、最長では4週間程度取得している。
- 女性医師の場合、妊娠が発覚してから徐々に産休・育休への対応ができるが、男性医師の場合は、急に育休の希望が出されることがあるため、長期の育休を取得されるとその穴を埋めるのが非常に難しくなる。過去の場合は、医師を急に派遣してもらうことができなかったため、OBの医師に手伝ってもらった。そのため、現在は男性医師に、育休を希望する可能性があったら、できるだけ早めに報告するように伝えている。
- 育休の取得日数については、4週間までは権利のため、希望の日数を認める。
- 育休中は給与が減額になることを知らない男性医師もいるので、そういった周知も重要。
- 男性医師の育休を取得可能な環境にはしているが、なかなか取得する男性医師はいない。

- 来年、男性医師が育休を1ヶ月取得予定だが、代わりがないため、対応に困っている。
- 男性医師で育休を取得した人はおらず、男性職員が1ヶ月程度の育休を取得したことがある。
- 今後、男性医師から希望があれば、取得できることを前提に診療科長等と相談することになると思う。
- 現在は半数の施設で実績が無いが、今後は増えると思うので、対策を考える必要がある。

● 当直に関する取り決め等について

- 育休明けの医師は当直免除。未就学児がいる医師は当直免除で日直を依頼。
- 以前は子どもが未就学児の場合は当直免除だったが、子どもが小学生の間で本人の申請があれば当直免除となった。
- 時短勤務の子どもの対象年齢は、各診療科の判断としている。
- 本人の申請があれば対応せざるをえないので、本人や医局人事とも相談して、状況に応じて対応している。
- 子どもが小学校までで、両親のうち主に育児をしている方の親(医師)は、当直免除・6時間までの時短勤務・入院患者を担当しないことを認めている。その場合、当直する医師に負担がかかるため、1ヶ月40時間分の残業代をみなしで払う等、差別化することによって納得してもらっている。逆に、育児をしている女性医師でも当直を率先して行うこともあり、この対応で上手く回している。
- 診療科毎に配慮している。皮膚科の子育て中の女性医師の場合は、日直はしてもらっていて、時短勤務だが超勤手当もつく勤務形態となっている。
- 病院の規模が大きくなると、やはり診療科の事情に合わせた対応になっている。

● 医師の働き方改革の中で、特に育児等に関わる医師に対する配慮等について

- チーム制というか、助け合いに近い形と取っている。診療時間中は担当してもらって、診療時間外はチームの中で助け合う。

- チーム制にするように各診療科に推奨している。診療科毎の事情や医師の配置人数もあるので、できるだけチーム制にしてフリーの時間を作れるように促している。
- 手術が多いので、術後の対応等は主治医だけではなく別の医師が担当する等、チーム制をとっている。患者側にも、入院する前に説明をして理解してもらっている。数年前から取り組んでいるが、特に問題は起きていない。
- 現在、幼い子どもを育てている女性医師が1人しかいないため、緊急対応をする場合はその医師を外す等の対応は行っているが、チーム制の導入はしていない。
- 所属する医師が少ないため、チーム制というよりは助け合いのような対応となっている。他施設に医師を派遣したこともあり、細かく対応はしている。
- チーム制は結構前から導入している。具体的には、一番若手の医師、少し上の大学院生、外来を担当している教員等、大体3人でチームを組んで対応している。
- 女性医師の場合、本院での常勤の実績は無いが、非常勤医師の場合は内視鏡検査等を助け合いという形で対応している。

● 医療クラークについて

- 医療クラーク等については、定員は50人ぐらいで現在は充足している。
- ハローワークや担当者の努力、医療クラーク同士のクチコミ等で定員確保できている。
- 各診療科の状況をきくと、まだまだ足りないという意見も多く、定員数が適正かどうかも含めて今後も検討していきたい。
- 例えば、透析を担当する医師は1名だったりするため、医療クラークには大変お世話になっている。
- 全体の定員は17人ぐらいで、随時募集している。
- 人員を集める工夫としては、「ここは働きやすい」等のクラーク同士のクチコミが重要だと思う。「この病院のこの診療科はちょっと…」等の噂が出ると人は集まりにくいと思う。
- 地域のサイトにも募集の掲載をしている。

- 定員が58人で、各診療科に1人以上は配置している。
- 派遣会社を利用しているが、人気のある診療科では出産等で退職した人が復職するというパターンもある。
- 医療クラークの募集には、金銭面だけではなくクチコミが重要ということがわかった。

● 全体を通して

- 今回の会議で聞いていても、人員が不足している病院・診療科が多く、医師の派遣数を増やす等の工夫が必要だと思った。
- 今や女性医師が半数近くを占める状況なので、その全員の対応となると難しい。派遣数を増やすことも大事だが、その中でやりくりしていく方法を考えなければならぬ。
- 行政の場でも男性が育児休暇を1年取得する等があり、どの業種でもその対応が大変だと思った。
- 広島県でも先進事例等の良い情報を収集し、また情報提供できれば、と考えている。
- 当直の件で、女性医師への免除も必要だが、長く免除されてしまうとなかなか当直に戻れないという意見もある。

子育て中の医師の当直は、親が近くにいる等のサポートがある環境では復帰しやすいが、県外からきた医師等サポートが少ない環境では復帰するのが大変と聞く。当直から長期間離れないように、日直や当直等を少しでも経験させると、指導医としてのキャリアにもなる。子育て中は保育園を予約しても急な体調不良で、結局当直を替わってもらったりすることもあるので、当直を希望するのを二の足を踏むということも聞く。週末なら配偶者に頼むこともできたりと思うので、そういう日に子育て中の医師の当直を設定したり、診療科を超えて助け合いをしたりする等の配慮が良い事例となって広まっていけば良いと思った。

- 最初は希望するだけ時短勤務をさせていたが、一度時短勤務を取得すると復帰するのがなかなか難しくなるので、そういった復帰へ対応するシステム作りも重要だと思った。

相互の希望をマッチングしてキャリア継続支援

教育関連病院

課題、要望

- 短時間勤務医の受け入れ要望
- 院内保育対象年齢に達した子どもの預け先

連携

広島県、 地域医療支援センター

広島県：女性医師等就労環境整備事業を実施
地域医療支援センター：「ふるさとドクター
ネットひろしま」を活用し、県内病院からの求
人情報の提供と就業希望者の相談に対応

- 教育関連病院の支援内容を
一覧にして配布

- 関連病院の院内保育園の概要を
一覧にして配布

- 複数の病院で常勤雇用での
時短勤務受入（応相談）

- 出席者間で情報共有

大学各診療科

課題、要望

- 関連病院の支援制度を知りたい
- 専門医取得のために常勤雇用での時短勤務を
- 子どもの急な病気の際に預け先がほしい

連携

広島県医師会

- 子育て支援事業
【保育サポーターバンク】

広島大学関連の人事交流医師数 26 人以上の病院分布図



- | | | | |
|-------------|--------------|-------------|-----------|
| ① 県立広島病院 | ⑥ JA尾道総合病院 | ⑪ 土谷総合病院 | ⑱ 舟入市民病院 |
| ② 安佐市民病院 | ⑦ 中国労災病院 | ⑫ JR広島病院 | ⑲ 済生会広島病院 |
| ③ 呉医療センター | ⑧ 広島赤十字・原爆病院 | ⑬ マツダ病院 | ⑳ 中電病院 |
| ④ JA広島総合病院 | ⑨ 広島市民病院 | ⑭ 広島西医療センター | |
| ⑤ 東広島医療センター | ⑩ 三次市立三次中央病院 | ⑮ 呉共済病院 | |

2. 相談窓口等にかかる取り組み

どの窓口にも相談しても三者で情報を共有し支援につなげる取組



平成 29 年 4 月 1 日付けで開設した広島大学病院女性医師支援センターでは、相談窓口を設置し、平日の 8:30 から 17:15 まで相談を受け付けてきた。また、直接来られない場合でも、電話又はメール、女性医師支援センターのホームページでの相談を受け付け対応しており、相談窓口の設置についてはセンターのホームページでも広く案内している。これとは別に、広島県医師会にも女性医師等相談窓口があり、また、広島県地域医療支援センターでも相談を受け付けるなど、それぞれの窓口にあった相談については個々に対応する場合もあり、広島県内の女性医師が抱える問題にかかる総合的な情報共有のあり方が課題であった。

そこで、平成 30 年度から「広島三本の矢：女性医師支援チーム」を設立し、広島大学病院女性医師支援センター、広島県医師会、広島県地域医療支援センターが三位一体となって、互いに相談を受けた場合には、速やかにコアメンバー会議を開催し、支援策を展開するという体制を整えた。そして、相談のあった事例については、広島県女性医師支援総合会議で議論し、マッチングを行い、女性医師のキャリア継続を支援する。

相談内容	対 応
広島大学たんぽぽ保育園者の選考基準について	保育園園長（病院運営支援部長）に相談後、回答した。
両親が広島大学病院に所属している場合の育児休業制度について	医療政策室グループリーダーが規則を確認後、制度の内容をまとめている広島大学のHPを案内した。
お盆期間の学童について	本学の学童保育の申込締切が過ぎていたため、副センター長と相談後、広島県医師会の保育サポーターバンクを案内した。
妊娠した女性医師に対する他診療科および他院の宿直制度について	広島県女性医師支援総合会議のアンケートテーマとして取り上げ、色々な意見を収集し、報告した。
【HPの掲示板】広島大学に所属する大学院生の産休・育休制度について	規則を確認後、制度の内容をまとめている広島大学のHPを案内した。
女性医師を目指す大学院生に対する支援について	本センターが常勤の医師に対する支援が多いため、運営委員会で協議した結果、来年度からHUH (Hiroshima University Hospital) 活躍支援助成の応募条件を拡げることにし、その旨を回答した。

女性医師支援センター

お問い合わせ

女性医師支援センターでは、皆さんからのご相談を受け付けています。

- ・休んでいたけど医師として復帰したい。
- ・子どもの保育施設や育児支援に関する情報を知りたい。
- ・仕事と育児を両立したい。
- ・その他、女性医師としてのキャリアについての相談、など

何でもお気軽にご相談下さい。電話はもちろんメールでも受け付けていますので、忙しい方でも時間を気にせずご相談頂けます。ご希望があれば直接面談することも可能です。

ひとりで悩まず、まずはご相談ください。

ご連絡をお待ちしています。

■ 住所

〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号
 (臨床管理棟2F西側・医療政策室内)

■ 電話番号

TEL : 082-257-1576/FAX : 082-257-1703

■ メールアドレス

iryo-seisaku@office.hiroshima-u.ac.jp

■ ホームページ

<https://hosp-diversity.hiroshima-u.ac.jp/>



3. 勤務体制、診療体制にかかる取り組み

出産・育児等のために、長期にわたって医療現場から離れていた女性医師が、再び診療を行えるようになるまでには、一律の復職支援では十分ではない。復帰する診療科によって必要とされる手技や知識は全く異なるうえ、休んでいた期間の長さ、両親や配偶者の支援がどの程度受けられるか、子どもの健康状態がどうか、などによって、女性医師が必要とする支援は様々である。

広島大学病院においては、女性医師採用支援枠を設け、自由な就業時間を設定できるよう配慮し、常勤復帰までのサポートとすると同時に、診療科ごとに、女性医師の状況に応じて、柔軟な配慮を行うことができるよう取り組んだ。

具体例を以下に記載する。

各診療科独自の取り組み

- 女性医師との日程調整
- 朝8時台のカンファレンス、ミーティングの免除
- Web 会議ツールを用いたカンファレンスの実施
- カンファレンスを就業時間内に行う
- 緊急手術、緊急処置などの際に勤務時間延長とならないよう配慮
- 子の急病などの際の勤務変更など配慮
- 家庭の事情などによる勤務時間、勤務形態などの変更への配慮
- 時間短縮勤務の徹底
- 急な欠勤も対応可能にする
- 日当直および夜間待機の免除
- 診療科スタッフの診療支援（陪席、技術支援）
- 日常診療や最新医療の知識、手技の獲得

また、久留米大学、広島大学、岡山大学、佐賀大学、九州大学の共同で「医師のワークモチベーションを維持する動機づけ因子の研究」を行っている。現在解析中であるが、解析の中で事例個別の検討が重要と考えられたため、研究期間を延長し、動機付けと実際の活動の関係をより深く解析中である。このアンケートを通して女性医師等支援における時期的・質的方策を練る予定である。また、男性医師もアンケートの対象に含めることから、本アンケートから女性医師等支援において留意すべき点、改善の必要な点についての方策を検討できる。

4. 保育にかかるとの取り組み

小学校・保育園の臨時休校・休園にかかる学童保育利用を支援

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類へと移行したものの、小学校や保育園が臨時休校・休園になった場合、子どもがいる医師の家庭においては、保護者も医療従事者として勤務を継続することを求められる中、子どもの預け先に苦慮する状況となるため、引き続き、臨時休校・休園の際に民間の学童保育やベビーシッター等を利用した医師の家庭に対しては、利用料の一部を支援することとした。

関連病院等の院内保育園について情報提供

霞キャンパスの敷地内では、たんぼぼ保育園（定員72名）と、こすもす保育室（定員6名）を設置し、教職員の仕事と子育ての両立を支援しており、入園募集の開始などについて、適時に女性医師支援センターのHPに掲載するとともに、メーリングリストを活用して情報提供するほか、小学校の長期休業期間内に霞キャンパスの敷地内で実施される学童保育や、病後児保育利用料補助事業の募集などについても、情報提供を継続している。



また、人事交流で異動しながら勤務することが多い医師のために、関連病院の協力を得て、各病院が運営する院内保育園の定員、開園時間、保育料、入園申込みの連絡先などの情報を一覧にまとめ、HPに掲載している。

保育園の設置状況 R7.2.28 広島大学病院女性医師支援センター調べ

施設名	保育施設名称	利用対象職種	定員	年齢別内訳	開所日	日祝	保育時間	延長保育	保育料	病児・病後児保育	夜間保育	給食	申込み時期 ※4月入園の場合	入園決定時期	担当連絡先	年度途中入園	備考
1	県立広島病院	みらい保育所	40人程度	年齢別の定員なし ※男女別	月～土	なし	7:15-18:15	18:15-20:15	広島市規定に準ずる	あり	月2回	あり	随時		総務課庶務係 082-254-1818	空きがあれば可	日曜保育は月一回
2	広島市立北部医療センター-安佐市民病院 ※備考欄を要確認	あいぐらん保育園 めばえ	90人	生後2か月～小学校未就学児まで 年齢別の定員なし	365日（ただし土日祝などで、利用児童がいない日は休園）	あり	7:30-18:30	18:30-19:30	【3歳未満】 30,000円 【3歳以上】 0円（無償化対象者） ただし、別途給食費5,500円	あり	週2回（火曜・木曜）	あり	随時	あいぐらん保育園 082-847-6604	空きがあれば可	令和4年5月の病院移転開業に伴い、院内保育園が施設プランによる企業主導型保育室となりましたが、病院敷地外ですが、病院のすぐそばに設置し引き続き事業所保育園として機能します。	
3	広島市立広島市民病院	くるみ保育室	50人	0～3歳まで 3歳になった年度末まで	365日	あり	7:00-18:00	18:00-20:30	月額22,000円 （日額1,100円） 給食代（1食300円・おやつ代（1食50円）は別途徴収）	病児保育あり	週2回（火曜・木曜）	あり	入所希望月の前月20日まで	総務課庶務係 082-212-3134	空きがあれば可		
4	広島市立舟入市民病院	なし															
5	広島赤十字・原爆病院	院内保育所 こころ	全職種	30人	年齢別の定員なし	月～土	なし	7:30-19:30	あり ※20時以降	30,000円（3歳未満） 30,000円（3歳以上）	なし	あり	あり	1月以降	3月中旬頃	人事課 082-241-3111(内)3142	空きがあれば可
6	JA 広島総合病院	さくら保育園	病院職員 （有期契約者除く）	60人	年齢別の定員なし	月～土	なし	7:30-19:30	なし	35,000円（3歳未満） 35,000円（3歳以上）	なし	あり 金曜日のみ	あり	常時	総務課 0829-36-3111代	空きがあれば可	
7	JA 尾道総合病院	すくすく保育所	全職種	42人	年齢別の定員なし 0～3歳まで 3歳になった年度末まで	月～金	なし	7:30-18:00	なし	24,000円 （3歳未満、3歳以上） ※2人目から半額	なし	なし	あり	9月中旬頃	11月頃	人事課 0848-22-8111	空きがあれば可
8	JR 広島病院	のぞみ保育園	職種の制限なし	46人	年齢別の定員なし	月～土	なし	7:30-18:30	18:30-19:00	32,000円（3歳未満） 8,000円（3歳） 8,900円（4歳以上）	病児保育あり	なし	あり	1月以降	2月頃	事務部総務企画課 082-262-1171	空きがあれば可
9	中国電力株式会社 中電病院	なし															
10	マツダ病院	にこにこキッズ園	20人	年齢別の定員なし	病院開院日	あり	7:30-18:30	18:30-19:30	48,000円（3歳未満） 27,500円（3歳以上）	なし	月2回 第2・4金曜日	あり	10月1日頃		事務 G: 総務チーム 070-7577-0528	空きがあれば可	
11	中国労災病院	もみじ保育園	33人	0～3歳まで 3歳になった年度末まで	月～金	なし	7:30-17:30	17:30-19:00	22,000円 （給食代1食280円、おやつ代1食80円は別途徴収）	なし	なし	あり			総務課 0823-72-7171	空きがあれば可	
12	呉共済病院	駅前せいらんじ	全職種	52人	0歳12人、1歳20人、2歳20人、3歳5歳なし	月～土	なし	7:30-18:30	18:30-21:00	37,100円（0歳） 37,000円（1歳以上）	なし	なし	あり	随時	随時	総務課 0823-22-2111	可
13	呉医療センター・中国がんセンター	すずらん園	50人	0歳3人、1・2歳18人、3歳5人、4歳4人、5歳2人	月～土（土曜は第2、第4のみ）	なし	7:45-19:00	19:00-21:00	24,000円（2歳未満） 22,000円（2歳以上）	なし	あり	あり	不定期	不定期	0823-22-3111(代)	空きがあれば可	
14	東広島医療センター	あゆみ園	全職種	65人	0歳児10名、1歳児11名、2歳児12名、3歳児12名、4歳児5歳児2名	月～金	あり（土曜も）	7:45-18:30	7:30-19:00	29,900～31,900円（3歳未満） 26,900円（3歳以上）	なし	なし	あり	随時	随時	保育所 082-423-2176代	可

令和6年度
活動報告

施設名	施設名称	利用対象職種	定員	年齢別内訳	開所日	日祝	保育時間	延長保育	保育料	病児・病後児保育	夜間保育	給食	申込み時期 ※4月入園の場合	入園決定時期	担当連絡先	年度途中入園	備考
15	広島西医療センター	たけのこ保育園	30人	生後8週間～4歳まで	月～土	なし	8:00-18:30	6:40-19:30	24,500円(0～1歳) 25,000円(1～2歳) 24,500円(2～3歳) 21,000円(3歳以上)	あり	なし	なし	入園しようとする1か月前までに入園申込書を提出。4月入園の場合3月1日頃	3月7日頃	たけのこ保育園 0827-59-3577	空きがあれば可	
16	土谷総合病院	なし															希望者数減少のため院内保育園休止
17	市立三次中央病院	さくらんぼ	12人	年齢別の定員なし	月～土	なし	7:30-18:30	18:30-19:30	25,000円(3歳未満)	なし	なし	あり	随時		病院企画課 0824-65-0152	可	
18	広島大学病院	たんぽぽ保育園	72人	0～5歳児まで各12人	月～土	なし	7:30-19:00	19:00-20:00	59,000円(3歳未満) 38,000円(3歳以上) ※給食費込み	他施設の利用料を補助	なし	あり	12月中旬～1月末	2月上旬頃	たんぽぽ保育園 082-257-5599	追加募集時のみ可	https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/tanpopo/
19	広島大学病院	こすもす保育室	6人	広大勤務の全職種及び広島大学の学生 生後9週以上15月未満(定員に空きありの場合2歳児まで)6人	月～金	なし	7:30-19:00	19:00-20:00	59,000円(0歳～2歳児) ※給食費込み	他施設の利用料を補助	なし	あり	1月中旬～2月下旬	3月上旬頃	男女共同参画推進室 082-424-4355	空きがあれば可	https://www.hiroshima-u.ac.jp/gender/worklife/cosmos 入所待機児童を対象とする
20	庄原赤十字病院	タンネの森	職員 15人	0歳～2歳	月～土	なし	7:30-18:30	18:30-19:30		あり [わらべ保育室]	あり [木曜日]	あり	随時	(事務室) 0824-74-6636	可		
21	社会福祉法人 恩賜財団 済生会広島病院	保育室 さくら	病児・施設職員 30人	0歳～3歳 年度末	月～土	※備考欄	8:00-18:00	7:00-8:00 18:00-21:00	保育料月額 20,000円 給食費月額 5,000円	あり	なし	あり	随時	総務課 082-884-2566	可	第2日曜日(希望に応じて)	
22	JA広島厚生連 吉田総合病院	吉田総合病院 保母さんほし			月～土		8:00-18:00								0826-42-0656		
23	県立障害者リハビリテーションセンター	なし															
24	吉島病院	なし															
25	社会福祉法人 恩賜財団 済生会呉病院	保育室 [なでしこ]			月～土(土曜は第2、第4のみ)	※備考欄	8:00-19:00								0823-25-2192		第2、第4の日曜のみ 8:00-19:00
26	一陽会 原田病院	クローバー保育園	職員の子で0歳から4歳までの乳幼児	27人	月～土	※備考欄	7:30-19:30	夜間対応あり			夜間保育(週2回/23時迄)	あり					日曜日保育(月1回)夜・定休日保育 https://www.icy.or.jp/recruit/welfare/nursery_school.html
27	広島県立安芸津病院	なし															
28	三原市医師会病院	さつき保育園	病院職員				8:00-18:00	18:00-19:00							0848-64-7074		http://mihara-city.hiroshima-med.jp/hp/facility-information/welfare/satsuki-nursery/
29	呉市医師会病院	保育所 ひだまり	呉市医師会職員と会員医師の子		毎日	あり	24時間 保育可能	※備考欄	月額 10,000円 日額(昼間) 1,000円 (夜間) 500円 (夜勤明け) 1,000円 (休日) 半日 1,000円 1日 2,000円	なし	あり	あり		保育士 宮川・瀬口 0823-27-3001(内線 2180) 常 夜 行 時 間 8:00-17:30		(昼間) 8:30-17:15 (夜間) 16:30-翌朝 8:30 (夜勤明け) 8:30-17:15 (休日) 8:30-17:15 http://www.kure.hiroshima-med.or.jp/hp/hoiku.html	
30	安芸市民病院	すこやか保育園	安芸市民病院に勤務する職員	36人	0歳～小学校就学前まで	月 火 木 金 土	7:30-18:30	あり	0～2歳児 30,000円/月 3～5歳児 20,000円/月 2人目 10,000円引き 延長保育 850円/60分～1時間保育 3,000円/1日		あり			安芸市民病院 総務課 082-827-0121		http://www.hosp.city.hiroshima.med.or.jp/kangobu/nursery-school/	
31	三次地区医療センター	きらきら保育所	職員 ※地域の老若男女(パート)の方可	15人(地域枠4人)	満9ヵ月から3歳未満	月～土	原則なし	8:00-18:30	従業員:11,000円～22,000円(第3子は無料) 地域枠:三次市の定める保育料			あり					地域枠のご利用を希望される方は、三次市子育て支援課にご相談下さい。 http://www.miyoshi.hiroshima.med.or.jp/html/krakra.html
32	総合病院 堀尾生協病院	ひまわり保育園 ぽかぽか保育園	病院職員 ※ひまわり保育園は地域の子ども様も可	22人	生後8週から3歳を迎える年度末	月～土	あり	※備考欄	(地域枠) 広島市が決定した利用者負担額(従業員枠) 広島市が決定した利用者負担額から2割減額し、上限額は35,000円	あり	あり	あり		ひまわり保育園 082-292-3183 ぽかぽか保育園 082-292-3179		ひまわり保育園 7:30～18:30 ぽかぽか保育園 8:00～17:30 http://www.h.ch.coop/hch/himawari/index.html	
33	三原赤十字病院	三原赤十字病院院内保育所					8:00-18:00										
34	公立みづぎ総合病院	院内保育所 あゆみ													0848-76-1314		
35	公立世羅中央病院	きらめきキッズルーム	企業団に勤務する職員	18人	生後2ヶ月から小学校3年生まで	12/29～1/3以外開所	あり	※備考欄	就学前保育 3歳未満/15,000円 3歳以上/11,000円 延長保育/200円 学童保育 5月、6月、9月～11月、2月……………3,000円 4月、7月、12月、1月、3月……………4,000円 8月……………5,000円					0847-22-2577		就学前保育・通常の保育/7:30-18:00 学童保育・通常の保育/15:30-18:00 http://www.serachuo-hp.jp/info/hoiku.html	
36	安芸太田病院	なし															
37	広島記念病院	なし															
38	大慈会三原病院	ひまわり保育所		1歳児～未就学児(6歳まで)			8:00-19:00		無料								https://miharahp.com/recruit/about/
39	国立病院機構 福山医療センター	杉の子保育園	院内職員	40人	生後6週間～3歳児 初幼稚園とのリレー保育の場合就学前まで										084-920-7010		https://fukuyama.hosp.go.jp/welfare.html
40	広島市こども療育センター	なし															
41	厚生堂長崎病院	さくら保育園	職員	10人	0歳(生後2ヵ月)から就学前児	月～土	なし	8:00-18:00	要問合せ								問い合わせ先: 事務長
42	信愛会 日比野病院	日比宅 日比家	23人 19人						保育料 1時間 100円 給食費 1食 350円								https://shinaikai.hibino.or.jp/facility/hibitaku/

施設名	施設名	利用対象	定員	年齢別	開所日	日祝	保育	延長	保育料	病児・病後児保育	夜間	給食	申込み時期	入園決	担当連絡先	年度途	備考
	名称	職種		内訳			時間	保育			保育		※4月入園の場合	定時期		中入園	
43	国立病院機構 賀茂精神医療 センター	たんぽぽ 保育園		0歳児～6 歳児													https://kamo.hosp.go.jp/about/child_care.html
44	因島医師会 病院	あり															
45	たかまさ会 山崎病院	パンピ 保育所		0歳～6歳					月額/10,000円 昼食/1日800円 半日300円 食事/朝食100円 昼食100円 昼・夜200円		あり			082-280-0556			
46	光臨会 荒木脳神経 外科病院	アラキズ ルーム	職員	12人	0歳児～小 学校就学前 の幼児	全日	あり		月額6,000円(給食 手作りおやつ代込) 一時預かり500円 (食事を含む)	職員	あり	あり				https://atakihp.jp/recruit/welfare/arakids-room/	
47	せのがわ 瀬野川病院	キッズ ルーム	医療法人せ のがわに勤 務する女性 スタッフ		生後3ヶ月～3 歳までとする。 (相談可)	月～土	なし	8:30- 18:00	一人目 1日500円 二人目以上1日300円			なし					https://senogawa.jp/recruit/
48	井野口病院	なかよし 保育園	病院 スタッフ		育児休暇明けの 1才～3才まで の常時保育と、 長期休暇や放課 後に対応した小 学校3年生まで の一時預かり	月～土	あり	8:00-									https://www.inokuchi.or.jp/about/group/headquarters/nursery-school.html
49	呉共済病院 忠海分院	なし															
50	祥和会 脳神経センター 大田記念病院	あすなる 託児所	祥和会 職員専用									あり					https://otahp.jp/recruit/welfare/
51	まりも会 ヒロシマ 平松病院	なし															
52	うすい会 高尾ニュー タウン病院	高尾 ニュータ ウン病院 保育室	法人職員が 保護者であ る家庭保育 が困難な乳 幼児		0歳～小 学校低学年 (一時預かり 可能)	365日		8:00- 18:30	なし	1時間100円	なし	なし			082-843-9082		https://www.usukai.jp/recruit/
53	広島厚生会 広島厚生病院	広島八景園 保育園 (近隣にあ るグルー プ内施設 の院内保 育園)	職員	6人	0歳～3歳			7:30- 18:30									
54	ハートフルア リ/リハビリテ ーション病院	あまの 保育園	地域の方 もご利用 できます。	70人	0歳児:18名/ 1歳児:22名/ 2歳児:30名/ 3歳児:10名 (病児保育4名)	月～金		7:50- 18:50	17名13,000円(職員 19,000円(地域の方) 27名～11,000円(職員 9,500円(地域の方)	病児保育(火曜 日・日曜日休園) ※職員のみ	夜間・早 保育(水曜 日・土曜日 のみ) ※職員のみ	あり		あまの保育園 0829-32-8800 amano-hoiku@ amano-reha.com		http://www.amano-reha.com/amano_hoikuen.html	
55	広島県立障 害者療育支 援センター	なし															
56	樹善会 本永病院	あり															
57	辰川会 山陽病院	おひさま 保育園	従業員枠 17名 地域枠 13名	30人	0歳児(生 後2ヶ月)～ 2歳児	月～土		7:30- 18:30	辰川会グループ常勤 職員:15,000円/月 (法人規定による) 福山市から保育 認定された方:福 山市の規定による					084-927-0840		https://www.sanyo.or.jp/kids/	
58	広島県立 福山若草園	なし															
59	広島通信病院	なし															
60	一ノ瀬病院	なし															
61	井口医院	こども 育成舎 ゆづ		約20人	0歳児 1、2歳児 3～6歳児 (就学前児) 各若干名	月～土	なし	8:00- 19:30	0歳児40,000円 1～6歳児35,000円			あり			082-824-8882		https://www.inokuchi-clinic.net/about/effort/nursery/
62	貴和会 佐伯中央病院	なし															
63	清風会 廿日市 記念病院	保育室	法人に 勤務する 職員	25人	0歳～6歳 までの乳幼児	全日	あり	24時間 保育 可能	1歳未満1,200円 上限20,000円 1歳～3歳未満900円 上限15,000円 3歳以上900円 上限14,000円		あり	食事料: 310円/食 おやつ代: 1500円/月				https://www.seifu.or.jp/kango/nursing/	
64	せいざん 青山病院	職員専用 託児所			0歳～6歳まで	月～土		8:00- 18:00									
65	清幸会 三原城町病院	おひさま 保育所			0歳～未就 学児		あり	8:00- 18:00				あり					https://www.mihara-shiomachi-hp.or.jp/recruit/working/daycare/
66	玄同会 小島病院	小島病院 託児所	職員	なし	産休明け～ 就学前まで	月曜日～ 土曜日		8:00- 18:00 (職員が帰 るまで)				あり					https://kobatake.or.jp/recruitment/benefit/
67	慶寿会 千代田中央病院	なし															
68	せがわ会 千代田病院	たんぽぽ 保育所	医療法人 社団せが わ会職員	25人	0歳児から 小学3年生 まで	全日	あり	8:00- 18:00	A型(1か月あたりの 利用日数がおおむ ね15日以上):月額 10,000円 B型(15日以内):日 額600円 ※おやつを注文され る場合は日額50円。					総務課 0826-72-6511		http://www.chiyoda-hospital.or.jp/untitled22.html	
69	松栄会 瀬野白川病院	なし 設置予定なし															

令和6年度
活動報告

施設名	保育施設名称	利用対象職種	定員	年齢別内訳	開所日	日祝	保育時間	延長保育	保育料	病児・病後児保育	夜間保育	給食	申込み時期 ※4月入園の場合	入園決定時期	担当連絡先	年度途中入園	備考
70	財竹政会セントラル病院	わくわく託児所		0歳～3歳							あり						
71	府中市市民病院	おひさま保育所															
72	府中北市民病院	なし															
73	社団沼南会沼隈病院	託児所つばさ	沼南会従業員	30人	産後から就学まで	月～土		※備考欄									月曜～土曜 8:00～18:00 (第1～3日曜日は8:00～18:00) ※必要時開所 https://www.shounankai.or.jp/recruit/welfare.html
74	微風会ビハラー花の里病院	チャイルドハウスいづみ		1歳から													https://mifukai.jp/co/action
75	宅会グッドライフ病院	グッドライフ病院従業員10名、地域10名	20人			なし	7:30-18:30	18:30-20:00						084-983-0081			https://www.manmys-t.jp/nurseryschool/goodlife/
76	医療法人和同会広島シーサイド病院	院内保育園			月～金(土は月2回)		7:30-17:30	-18:30						082-255-1010			
77	医療法人和同会広島グリーンヒル病院	ピッコロ保育園			365日	あり	7:30-19:30							082-929-1110			
78	医療法人社団和同会広島中央リハビリテーション病院	よつばキッズハウス			365日	あり	8:00-19:00				あり(週1回)						https://hirochu-rh.jp/recruit/welfare/

一覧は、女性医師支援センター HP からダウンロードできます。

広島県医師会の保育サポーターバンクの運営を支援

子育て中の医師が仕事と家庭を両立させていくための支援として広島県医師会が運営を開始した保育サポーターバンクの運営について、大学病院内にポスター掲示し、各診療科へ案内を配布したほか、センターのHPへの掲載、各会議での紹介など、子育て中の医師への周知を図った。また、女性医師支援センター長と副センター長が、広島県医師会の「子育て支援事業運営委員会」の委員に就任するなど、事業運営においても緊密に連携している。

子育て中の 医師の方々へ!

広島県
医師会

保育サポーターバンク

をご活用ください

保育サポーターバンクとは

- 子育て中の医師が仕事と家庭を両立させるための支援です。
- 支援内容は、保育サポーターが保育と併せて出来る範囲であれば制限はありません。
(病児・病後児保育や家事支援も、双方の話し合いで合意すれば可能です。)
- 報酬は医師と保育サポーターが話し合ってから決める2者間の委託契約となります。
- 保育サポーターの支援中は、本会の負担にて「子ども傷害保険」、「サポーター保険」が適用されます。

※保育サポーターの皆さんには子育て支援員研修を受講いただく必要があります。

支援の流れ

支援の例

- ☑ 子どもと一緒に医師宅(もしくはサポーター宅)で留守番。
- ☑ 保育園(幼稚園)・習い事や塾への送迎。
並びにその前後の預かり。
- ☑ 残業の日、泊業、急な呼び出しの時の子どもの預かり。
- ☑ 子どもと一緒に留守番しながら、子どもの食事や簡単な掃除。

お申し込み・お問い合わせ

育児で困ったら、お電話かメールを下さい。広島県医師会は、子育て医師を応援します! 男性医師からの相談も受け付けます。

082-568-1511

受付 月曜～金曜 10:00～12:00/13:00～17:00

〒732-0057 広島市東区二草の葉3丁目2番3号
sapo-to@hiroshima.med.or.jp

一般社団法人広島県医師会 保育サポーターバンク

マタニティ白衣・マタニティスクラブ レンタル

平成 29 年 7 月から、マタニティ白衣を女性医師支援センターに備え、利用を希望する女性医師へのレンタルを開始し、令和 3 年 3 月からは、マタニティスクラブのレンタルも開始した。

更に、令和 6 年 11 月からは、要望のあったマタニティジャケットのレンタルも開始した。

マタニティ白衣は学章が入るものと入らないもの 2 通りを用意し、広島大学病院だけでなく、広島県内に勤務する女性医師も着用できるよう配慮している。

令和 6 年度の利用実績については以下のとおりであった。

マタニティ白衣

診療科等名	職 名	貸出期間
整形外科	医科診療医	令和 6 年 1 月～ 12 月
皮膚科	医科診療医	令和 6 年 5 月～ 7 月
※歯科保存診療科	クリニカル・スタッフ	令和 6 年 8 月～ 12 月
精神科	医科診療医	令和 6 年 11 月～ 12 月
救急科	医科診療医	令和 7 年 1 月～ 3 月
腎臓内科	医科診療医	令和 7 年 2 月～ 4 月 (予定)
脳神経内科	医科診療医	令和 7 年 2 月～ 8 月 (予定)

マタニティスクラブ

診療科等名	職 名	貸出期間
皮膚科	医科診療医	令和 6 年 5 月～ 7 月
救急科	医科診療医	令和 7 年 1 月～ 3 月
腎臓内科	医科診療医	令和 7 年 2 月～ 4 月 (予定)

広島大学病院女性医師支援センター

マタニティ白衣・スクラブ レンタルします

おひとり2枚まで貸し出します
サイズは3種類!

広島県内の医療機関に勤務されている方へ
■郵送のご希望も受付ます。
■学章の入らないタイプもご利用しています。

マタニティ白衣等の特徴
■腰廻を調節できます。
■袖月まで対応可能
■ダブル仕立てでお腹のふくらみが目立ちません。

受付時間 月～金曜日
8:30～17:15

(S・M・Lサイズあり)
ご試着できます

広島大学病院女性医師支援センター
広島市南区南1-2-3 臨床研修棟2階 (広島県広島市南区南1-2-3 広島大学病院敷地内)

☎ **082-257-1576**
内線(6856)

※敷設に限りがありますので、まずはお電話ください。

広島大学病院 女性医師支援センター

マタニティジャケット レンタル開始!

Mサイズ・Lサイズ をご用意しております。
(おひとり2枚まで貸し出します)
試着もできますので、お気軽にお問い合わせください。

マタニティ白衣やマタニティスクラブも、引き続きレンタルしています!

【お問い合わせ】
医療政策室
(082) 257-1576 内線 6856
iryo-seisaku@office.hiroshima-u.ac.jp

5. 復職支援にかかる取り組み

出産・育児等のために、長期にわたって医療現場から離れていた女性医師が、再び診療を行えるようになるまでには、一律の復職支援では十分ではない。復帰する診療科によって必要とされる手技や知識は全く異なるうえ、休んでいた期間の長さ、両親や配偶者の支援がどの程度受けられるか、子どもの健康状態がどうか、などによって、女性医師が必要とする支援は様々である。

広島大学病院においては、診療科ごとに、女性医師の状況に応じて、柔軟な配慮を行うことができるよう、取り組んでおり、日本医師会女性医師支援センターが実施する女性医師の再研修受け入れに、再研修支援施設として登録している。

日本医師会 女性医師バンク

03-3942-6512
受付時間：平日10:00～17:00

ブックマーク お問い合わせ ログイン 新規登録

ホーム 初めての方へ 常勤・非常勤求人検索 スポット求人検索 産業医求人検索 よくある質問 採用担当の方

初めての方へ

Beginner's Guide

女性医師バンクとは

日本医師会女性医師バンク（以下「女性医師バンク」）は、厚生労働省の指定を受け、今後急増していくと予想される女性医師のライフステージに応じた就労を支援し、医師の確保を図ることを目的として、日本医師会が実施している事業です。

女性医師バンクは、厚生労働大臣の許可を受けて行う職業紹介事業（厚生労働大臣許可 13-ユ-301810）あり、女性医師に関するデータベースを構築するとともに、女性医師の採用を希望する医療機関の情報収集を行い、女性医師に対して就業希望条件にあった医療機関を紹介し、就業までの間の支援を行うことを目的としております。

また再就業後も、継続して勤務できるよう支援を行うとともに、女性医師にとって、より働きやすい環境の整備も推進してまいります。

女性医師バンクの特徴

- ポイント1** 日本全国、日本医師会員でない方もご登録いただけます。
- ポイント2** 専任コーディネーターが求職者一人一人の状況に合わせた求人をご紹介いたします。
- ポイント3** 登録料、紹介手数料等費用はすべて無料です。
- ポイント4** 就業後のご相談も承っております。
- ポイント5** 復職に向けた再研修が必要な方からのご相談もお受けしております。

就業までの流れ

- 仮登録(基本情報)、マイページ発行
- 本登録
- 求職条件の登録
- 求人情報詳細の提供
- 面談・見学
- 内定

6. 効果的支援策の普及活動の実績

I. キャリア継続・復職・保育に関する支援

(1) 相談窓口、新たな支援要望情報の収集

- ① 「広島三本の矢 女性医師支援チーム（広島大学病院女性医師支援センター、広島県医師会、広島県地域保健医療推進機構地域医療支援センター）」による相談窓口について、広島大学病院院内掲示、ニュースレター、広島県医師会報等で周知を行った。
- ② 女性医師支援センター ホームページ内に相談受付・回答、目安箱があることを広島大学病院院内掲示、ニュースレター、講演会開催の際のチラシ等で周知を行った。実際に働き方改革関係の相談が寄せられた。

(2) 勤務体制・診療体制の改善につながる取組

医師のワークモチベーションの探索：

研究成果をワーキンググループで討議した。現在解析を追加中のため、今後、学会や広島大学のFDに対応する講演会で発表する。

(3) キャリアに対する理解・意識変革につながる取組

女性医師のワーク・ライフ・バランス、キャリア形成に関する講演会・お茶会の開催：

女性医師等が、病院勤務だけでなく開業や健診業務、介護施設勤務、企業の産業医、行政等、幅広いキャリアの可能性を知ってもらうため、広島県医師会に設置されている女性医師部会との連携により講演会を開催した。女性医師・女子医学生だけでなく、男性医師・男子医学生にも積極的に参加していただき職場全体での理解を図ることができた。また、質問や相談をしやすいお茶会も開催し、女性のみならず男性医師、医学科学生の参加も得た。男女学生にも積極的に情報を提供し、将来男女に関わりなくキャリア継続に関してお互いが協力できる環境を構築できるよう、現在の問題点や解決策について議論した。

(4) 保育環境改善につながる取組

① Web 会議ツールを駆使したキャリア支援：

これまで対面で行っていたキャリア相談や参集していた会議や講演会等に関し、オンライン/リモートも併用して行った。また、これが全学的に普及するよう推進すると共に、今後対面が増える中でもハイブリッド方式が保たれるよう配慮している。

② 夕方以降・休日の勉強会・研修会等開催時の託児経費補助：

夕方以降・休日の勉強会・研修会等開催時の託児経費補助ができることを周知した。今年度は、休日のカンファレンス開催時の託児経費補助を4回行った。

③ 広島県医師会の子育て支援事業のサポート：

広島県医師会の保育サポーター事業について、利用者の増加を狙い広島大学病院内で広報した。日本医師会の中国四国ブロック会議等でも各県と問題点と好事例について議論を行った。

④保育情報の取りまとめと共有：

広島県下の主要病院および協力病院から院内保育についての情報を収集し、大学病院のホームページに掲載することにより広島県で就業するすべての医師と情報共有した。

⑤小学校の長期休暇期間中および緊急事態に呼応した子どもクラブの開設：

センターホームページ等で周知し、広島大学病院以外でも実施したい施設があれば、ノウハウについて情報を提供する。

II. 活躍支援

HUH (Hiroshima University Hospital) 活躍支援助成：

支援助成への申請書を審査し、採択された助成については、受賞者に業績、使途内容等を医学生とのお茶会で発表していただいた。また、受賞者にはご自身の経験や学生に伝えたいことなど、キャリアに関する助言をしていただいた。

III. 支援情報の周知、支援ニーズの把握

(1) **広島県女性医師支援総合会議**

本会議において周知・共有した支援情報は議事録として提供した。要望については対応を行い翌年の会議で報告、再度議論する。

(2) **女性医師支援センター ホームページの利用**

上記の事業の内容、公募、結果、相談回答等はすべてホームページで紹介した。

(3) **クリアファイルの配布**

センターの存在、活動を周知するためのツールとして、センターの名前、ホームページの URL の入ったクリアファイルを作成しており、講演会やお茶会、各種会議で配布した。



4 本事業からの今後の支援策

今年度は、「女性医療職等の働き方支援事業」における計画をもとに、女性医師への支援を実施してきたところであるが、今後の支援策としては、以下のとおり、継続、発展させていく。

広島大学病院では、今後も柔軟な働き方のしやすい環境整備、休業中の女性医師の復職支援を行い、医師全体の働き方の改革の一助になることを目指す。久留米大学との共同研究『医師のワークモチベーションの探索』の解析結果を、女性医師等支援における時期的・質的方策に盛り込み、今後の支援策に役立てる。

職場の理解にかかるとり組み

(1) 地域の医療機関、関係団体等との連携体制を維持

現在の体制を維持しつつ、広島県ならびに広島県医師会との連携を強化する。

各団体と連携し、医学生へのサポートの拡充を図る。

各種事業を連携して実施するほか、新たな助成事業等の情報を得る。

(2) センター運営会議の定期開催

定期的な開催を継続し、女性医師が必要とする支援について検討する。

(3) 広島県女性医師支援総合会議の開催

年に1回の開催を継続し、関連病院と各診療科の女性医師支援の情報を共有するとともに、医局等に所属する女性医師が、派遣人事の枠外にて関連病院等での勤務が可能となるマッチングを目指す。

相談窓口

「広島三本の矢」女性医師支援チームによる相談事業の拡充

勤務体制、診療体制にかかるとり組み

複数（チーム）主治医制を推進する。

保育にかかるとり組み

関連病院の院内保育園の情報共有、小学生の長期休暇中の学童保育や病児保育の利用料補助等の大学病院内において実施する各種保育事業の周知を図る。

広島県医師会が実施している保育サポーター事業の推進と普及に取り組む。

妊娠中の女性医師のためのマタニティ白衣やマタニティスクラブの貸し出しについて周知を図る。

支援に関する広報

広島大学病院女性医師支援センターの支援や取組みをより多くの人に広報するため、令和3年度に新規作成したホームページの活用を促進し、より多くの方からの意見を得られるよう工夫する。またこのホームページを通して女性医師支援センターの活動を積極的に周知し、フィードバックを得られるよう設定し、改善点の要望・意見を収集する。

5 外部評価

「令和6年度 子育て世代の医療職支援事業」の実施について外部から評価いただくため、事業報告書を送付し、書面での外部評価を受審。

外部評価委員

石田 万里（広島県医師会女性医師部会・部会長／広島修道大学健康科学部健康栄養学科・教授）

全体評価及び講評

近年、日本社会において女性医師のキャリア継続支援の重要性がますます認識されるようになってきています。特に、医師の働き方改革が進められる中で、女性医師が仕事と家庭を両立しやすい環境を整えることは、医療の質の向上にも寄与する重要な課題となっています。しかしながら、依然として育児・介護と医師の業務負担の両立には多くの課題が残されており、実効性のある施策が求められています。

広島大学病院女性医師支援センターは、広島県医師会と連携し、女性医師や女子医学生のサポートを目的とした講演会や交流会を開催し、課題の提起と解決策の検討を行いました。

「医学生、研修医等をサポートするための会」では、「病児保育」および「介護」をテーマに、現地開催とオンライン配信を組み合わせたハイブリッド形式で実施されました。病児保育の利用方法や介護の経験を共有する講演に加え、活発なディスカッションが行われ、参加者にとって有益な情報交換の場となりました。これは、医学生や若手医師が将来直面する可能性のある問題を具体的に知る機会となり、支援制度の必要性を認識する上で大きな意義があったと思います。一方で、病児保育や介護サービスの地域差が依然として大きく、利用しやすい環境整備が急務であることも明らかになりました。

また、「医学生と医師のお茶会」は、対面形式で実施され、医学生と医師がリラックスした雰囲気の中で交流を深めた様子がわかります。事前に収集した学生の関心や質問に応じた医師の参加を促すことで、より実りある意見交換が行われ、参加者からは高い満足度が得られたものの、さらなる広報の工夫が求められるとの意見もあり、次年度に向けた改善が期待されます。今後は、より多様な背景を持つ医師が参加し、異なるキャリアパスを持つ医師の経験談を共有する機会を増やすことも有効と考えられます。

さらに、広島大学病院女性医師支援センターが独自に始めた「広島県女性医師支援総合会議」も早、7年目となり、定着した感があります。女性医師のキャリア形成やワーク・ライフ・バランスに関する課題について、大学病院や教育関連病院の関係者全体で意見を交わすことは大変重要です。本年は、男性医師の育休取得状況や当直免除の制度、医師の働き方改革に関する議論が行われ、今後の支援策の方向性が示されました。また、医療クレークの確保に関する意見交換もなされ、職場環境の改善が継続的な課題であることが確認されました。現状では、女性医師を支援する制度が整備されつつあるものの、制度の利用が十分に進んでいないケースや、職場による対応の格差があることが課題として浮き彫りになっているように思います。

施策の普及の必要性と今後の方向性について

これらの取り組みは、地域の医療機関や関係団体との連携を強化し、女性医師や女子医学生のキャリア継続を支援する重要な役割を果たしていると感じます。しかし、日本全体の医療環境を考えた場合、依然として女性医師の離職率が高く、出産・育児を理由とするキャリアの中断が医療現場の人材不足に影響を及ぼしている現状を踏まえると、これらの施策は全国的に普及させるべきです。

まず、病児保育や介護支援制度については、自治体レベルでの拡充とともに、全国の医療機関がより積極的に導入する必要があります。特に、医療従事者向けの専門的な病児保育施設の設置や、地域の既存サービスとの連携強化なども必要かもしれません。広島県では広島県医師会が独自の保育サポーター制度を展開しており、これも育児世代の医師には強い味方であり、方法論として全国に周知すべきと考えます。

また、医学生・研修医を対象とした交流会やセミナーは、各大学や研修病院が標準的に実施するプログラムとして定着させることが有効です。そのためには、医学部カリキュラムの一環として、キャリア形成やワーク・ライフ・バランスに関する講義やワークショップを組み込むことが考えられます。さらに、医師会や専門学会が主体となって、全国規模で同様の取り組みを推進し、各地域の特性に応じた支援策を策定することも重要です。その情報源として、広島大学病院女性医師支援センターが担うことも重要と考えます。

加えて、男性医師の育児休業取得の促進は、女性医師の負担軽減だけでなく、組織全体の働き方改革につながります。育休取得を推奨する病院の好事例を共有し、学会や行政がガイドラインを示すことで、より多くの病院が取り組みやすい環境を整えることが望まれます。

上記のように、これらの施策を全国的に普及させるためには、医療機関だけでなく、行政や学会、さらには企業とも連携し、多方面からの支援体制を整えることが不可欠と考えます。例えば、オンラインプラットフォームを活用し、各地域の成功事例や具体的な支援策の情報を共有する仕組みを作ることも一つの方法だと思います。

今後も、より多くの参加者が活発に意見交換できる場を提供し、実効性のある施策へとつなげていくことが期待されます。特に、制度の拡充だけでなく、実際に支援を必要とする医師が安心して利用できる環境を整えることが、持続可能な医療提供体制の構築に向けた鍵になると考えます。

令和6年度
子育て世代の医療職支援事業実施報告書
令和7年3月 発行

編集・発行



広島大学病院
女性医師支援センター

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3
TEL 082-257-1576 FAX 082-257-1703
URL: <https://hosp-diversity.hiroshima-u.ac.jp/>



(無断複写・転載を禁じます)